

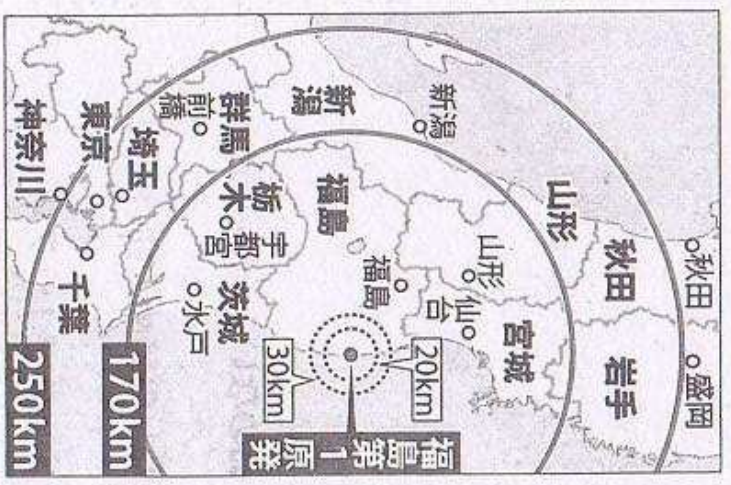
福島第1

守田氏提出資料

最悪「170キロ圏は移住」

原子力委員長 3月シナリオ作成

東京電力福島第1原発事故から2週間後の3月25日、菅直人前首相の指示で、近藤駿介内閣府原子力委員長が事故の「最悪シナリオ」を作成し、菅氏に提出していただく複数の関係者への取材で分かった。さらなる水素爆発や使用済み核燃料プールの燃料溶融が起きる場合、原発から半径



170キロ圏内が旧ソ連チェルノブイリ原発事故(1986年)の強相次いで水素爆発が起き、2号機も炉心溶融発から半径170キロ圏内なる試験して、近藤氏が作成した「福島第1原発不測事態のシナリオ」でA4判約20ページ。第1原発は、3月11日の地震や津波による全電源喪失で原子炉な

どの冷却機能が失われると仮定した。その結果、宇都宮市や茨城県つくば市などを含む原発から半径170キロ圏内で、土壌中の放射性セシウムが1平方メートルあたり148万ベクレル以上のチェルノブイリ事故の強制移住基準に達すると試算。東京都、埼玉県のほぼ全域や横浜まで含めた同250キロの範囲が、避難が必要な程度に汚染されると推定した。近藤氏は「最悪事態を想定したことで、さらに水素爆発が起きる原発内の放射線量が上昇。余震も続いて冷却作業が長期間できない、4号機プール中の核燃料が全て溶融した」と話している。